

# 創立56周年

～2012－2013年度を振り返って～  
会長告知編

2013年6月14日

諏訪ロータリー・クラブ 創立記念日例会  
会報、雑誌、広報委員会

## 2, 690回例会 2012. 07. 06(金)

初めての会長告知をさせていただきます。本年も役員の皆様のご協力をいただきスタートするわけですが、皆様のお力添えをいただきながら過ごしていきたいと思っています。

私の好きな人に「安岡正篤」がいます。大変幅広いことを教えていただきました。今年1年は皆様と共に「安岡正篤」を勉強しながら話を深めていきたいと思えます。「安岡正篤」は明治生まれで戦後まで元気でいられたそうで日本の陽明学の大家といわれています。(陽明学は中国の儒家の大家である「王陽明」1472年～1529年の学説)「安岡正篤」は歴代の首相の指南役を務めており、終戦の詔勅の作成や「平成」の元号を決めるなど彼の言葉には含蓄がありなるほどと感じるものがあります。

さて、「お前は誰だ」ということで私の生きてきた道をお話します。私は諏訪に生まれ、高校卒業後は東京の大学(工学部)に進学しました。大変真面目な学校でテストでは「優・良・可」の採点で最初80点以上は「優」ですが、今回はそれ以上にならないと「優」にならない。今のポジショニングより上がったかどうかを評価されました。「物事というのは勉強したからには向上しなければならない」を指標としている先生がいて大変勉強になりました。大学を卒業し22歳で諏訪に戻り、勉強のためエプソンさんに2年間お世話になりました。当時安川さんが課長でおられ新入社員の皆さんと一緒に勉強させていただきました。若い頃は歌をやりたいと思っていましたが、父親に反対され経営工学を学ぶこととなりましたが勤めてからも仕事より合唱が好きでございましたので、岡谷合唱団に熱中しました。週2日の練習に飽き足らず松本の合唱団にも入り週5日活動していました。その中に岡谷合唱団の設立者がおられ、私が40歳になるまでお付き合いをしてきました。長野県民文化会館の設置や長野県合唱祭の開催等の事業を一緒にやらせていただきました。

その後高島産業に入社しました。父親はあまり健康ではありませんでしたが、大変人望の厚く真面目で信念がある人物でした。今は父親に育てられた社員と共に仕事をしているのだなあとと思っています。30歳で青年会議所に入りました。39歳で議長に選任されいろいろ悩んでいるときに「安岡正篤」さんの「運命を作る」という本に出会いました。天命と運命とは違う、運命とは作るものだ。という内容でなるべく前向きにいろいろ考えるようになり、日本JCにも3回出させていただき大変多くの方と知り合うことができました。青年会議所の最後の年は神戸の震災がありまして大変な1年間を過ごしました。JCの後ロータリーに入れていただきました。ロータリーは大物の皆さんが集まっている会という感覚を持っていますが、先輩方は新入会員を仲間として接していただき、私は先輩方を「師」と思っております。

安岡正篤の好きな言葉の中で「六中観」についてお話します。内容は6つの言葉から成っており、

- ・「忙中閑あり」忙しい中でもなんとか暇を見つけなさい。
- ・「苦中楽あり」苦しい中でも楽を見つけなさい。
- ・「死中活あり」窮地でも活力をもってあたりなさい。
- ・「壺中天あり」壺の中に天を持つことを目指すと味わい、深みのある人物になりなさい。
- ・「意中人あり」困ったときに相談する人を持ちなさい。
- ・「腹中書あり」哲学、信念など本を座右の銘として蓄えなさい。

これらを意識して1年間過ごさせていただきたいと思えます。よろしくお願ひします。



## 2, 691回例会 2012. 7. 13(金)

先週は大変な大雨が降りました。昨日は九州地方は大変な大雨で18名の方が亡くなりました。今年の梅雨は大雨型で天気の良い日はいいのですが、雨が降ると大雨になるというように梅雨の雰囲気を感じさせません。本来は小雨が降り続いたり、曇天が続くのが梅雨の姿と思っていましたがそのような雰囲気がなく寂しいと感じます。

さて、先日は「六中観」の話の中で「忙中閑あり」からお話しました。「忙中閑あり」は暇を作りなさいということですが、なかなか現代社会では忙しく暇を見つけるのは出来ないというのが現代の共通認識です。現代々々と言われて60年経っているわけですが、なぜか我々は忙しい社会にずっと浸っています。

しかし、安岡正篤に言わせると「やはりそれではいけない」、忙しいというのは「りっしんべん」即ち心が亡いと書きますが、これは非常に忙しいということで、あってはいけないことであると言っています。物事に集中したりいろいろなことを考える時には、自分から進んで忙しさを無くすことが大事だと言っています。

「佐藤一斎」という江戸時代末期の儒家であり幕府の大学の総長をされ、西郷隆盛にたいへん影響を与えたことで有名な方ですが、「重職心得箇条」を書かれています。その中で「およそ重役たるものは忙しいことを口にしてはいけない」と書いています。まさに江戸時代からこういうことが言われておりますが、我々自身を振り返ってみますと、私はいつも忙しく、そわそわという感じですが、ロータリーの方々は「忙中閑あり」ができておられ、忙しい忙しいという方は少ないと思います。たとえば「何かお役目をお願いします」と言っても「わかりました」と気持ち良く引き受けていただけます。やはりこれがロータリーだなあと思っています。

本日は「忙中閑あり」について一言申し上げました。



## 2, 692回例会 2012. 7. 20(金)

7月17日に梅雨明けが発表されいよいよ暑い夏が来るわけですが節電では三宅さんもお心配なことだろうと思います。梅雨明けから日本はたいへん暑かったわけですがその間私は香港に居ました。香港も大変暑く暑い時は日本も香港も変わりがないなあと思いました。

中国とベトナムには隔月で通っていますがベトナムという国は雨季と乾季しかありません。一年を通してたいへん暑く雨が降るか降らないかという処で、そのような気候からなのかたいへんのんびりした処です。何故そんなにのんびりしているのかというと、いつ行っても南国の花が咲いていますし、人ものんびりしています。たぶんこれは食生活に随分係ってくることだろうと思います。ベトナムはだいたい三毛作が当たり前ですし、メコン川に網を張ってあとはハンモックで寝ているといつの間にか魚が掛かっていますから、まず食べることに困らないのでのんびりしているわけです。その点日本や寒い地域はたいへんで、何とかして食べないといけないわけですから地域事情による違いは大きいと思います。ベトナムは家がたいへん風通しの良い作りですから、ベトナム人は暑いことを普通だと考えていますしあまり苦しめません。

日本人は暑かったら苦しめて、寒かったら苦しめる民族です。先日「六中観」で「苦中楽あり」の話をしましたが、日本人はよく苦しみます。ベトナム人からすればそんなに苦しめなくても良いのにと感じていることだろうと感じます。しかし、日本人は苦しみながらどのように克服するかを考え文化を創ってきましたから地域による違いは大きいなあと思います。「苦中楽あり」苦しんで楽を作り出すという文化は人間にとって重要な気がします。

いよいよ節電の夏を迎え苦しみが増えますが、新聞を見ますと中国やフランスでは歴史的な水不足、アメリカでは大洪水という大変な異常気象で食糧価格が高騰すると予測されています。我々は苦しい中でも何とかして楽を見つけ出そうということを考えながら暮らしていかなければいけないと思いました。

さて、安岡さんの話の中で「思考の三原則」というものがありますが、物事を考えるときには三つの重要なことがあると言っています。一つは「目先に囚われず、長い目で見る」、二つ目は「物事の一面だけを見ないで出来るだけ多面的、全面的に観察する」、三つ目は「枝葉末節に拘らず、根本的に考察する」と言っています。

私も工場を作るときにはこれらの原則にどのように照らし合わせればよいのか以前からやっていますが大体が上手くいきません。ベトナムは物価は安いし宗教も同じだしなあと思ってやりましたが、先ほどの「のんびり」は迂闊にも考えていませんでした。

また、会社経営を考えてみますともっと若い人を教育しておけばよかったなあ、今一番の問題は平均年齢が上がりどのように世代交代をしていくかが悩みであります、そんなことをもう一度考えながら会社経営していきたいと思っています。



## 2, 693回例会 2012. 7. 27(金)

オリンピックのサッカーの試合が始まりましたが、男子サッカーで日本がスペインに勝つのは難しいだろうと思っていましたが、今朝新聞を見ましたら日本が勝ったということで大変驚きました。サッカーは試合期間が長いので開会式の前から始まります。オリンピックの開会式は27日、日本時間の明日朝5時からです。オリンピックはどのくらいの種目があるか数えますと26種目、302競技ありますが、8月12日の閉会式までのほぼ2週間の間に詰め込んでやりますので、ロンドンは大いに賑わうことと思います。

なぜオリンピックが4年に一度なのかと多くの方が疑問に感じています。調べてみますと、古代ギリシャで始まったオリンピックは元々暦を司る神官の祭典であったと言われていています。神官は8年を重要な周期として祭典を開催していましたが、8年では長すぎることから半分の4年周期にしたという説があります。また、有力な説としては太陽暦と太陰暦の関係で、8年という太陽暦は太陰暦で99ヶ月になるようで、太陽暦の8年周期が最初に決まり、後に太陰暦を50ヶ月と49ヶ月の二つに分ける周期に変わったようであります。古代ギリシャは月の満ち欠けを基にした太陰暦でしたが、一ヶ月は太陽暦にすると29.5日でした。近代オリンピックはクーベルタン男爵で有名な第一回アテネ大会が1896年に始まりました。

昔から物事には陰と陽があり、ヨーロッパでは陰の女性名詞と陽の男性名詞があります。東洋でも陰と陽があり、それを解明したのが易学です。宇宙とか人間とか樹木というのは無限の力や創造力を持っており、分化・発展していく力を「陽」と言い、発展したものが枯れていく、あるいは減っていき根本に吸い寄せられる力を「陰」と言いました。どちらが根本かという東洋の考え方では「陰」が根本だと言われていきます。

男性と女性はどちらが陰であるかという女性が陰になり、男性が陽になります。また、肉体や干支などいろいろなものを陰と陽で表しますが、肉体ではアルカリ性は陰、酸性は陽でありまして安岡先生は人間はアルカリ性が51%、酸性が49%の弱アルカリがたいへん体によろしいと言っていますが、小口先生本当でしょうか？(笑)家庭でも女房の権力が51%、夫の権力が49%であるように、女性が強いことが家庭円満の秘訣であると言っています。(笑)

本日は世の中には陰と陽があるというお話をさせていただきました。



## 2, 694回例会 2012. 8. 3(金)

たいへん暑い日が続きますが、熱中症に気をつけて暑い夏を乗り切っていただきたいと思います。

さて、オリンピック真っ只中ですが種目によっては終盤のものもあります。まもなく終わる柔道は男女ともに7種目あり体重別に競技が行われます。国技の柔道は世界が強くなったのか、日本が弱くなったのかわかりませんがなかなかメダルに手が届かず難しい状況です。調べてみると男子では4人のメダリストがいますが、60kg級が銀、66kg級が銅、73kg級が銀、90kg級が銅でした。このあとは100kg級以上の競技が残っています。女子では57kg級が金、63kg級が銅の二つでした。世界の壁は高く感じます。柔道は「礼にはじまり、礼に終わる」競技です。本日は礼についてお話しします。

あるとき雲水が師に拝礼をしました。その時師は「お前は何故拝礼をしたのか？」と聞いたところ、雲水は「先生を敬って致しました」と答えたそうです。すると師は「それは礼ではない」と言ったそうです。雲水が「礼とはどのようなものですか？」と聞くと、師は「礼とは汝によって我を礼し、我によって汝を礼すものだ。礼とは自分を通じて相手にお辞儀をするとともに、相手を通じて自分が自分にお辞儀をすることだ」と答えたそうです。礼は敬いの心から生ずるもので、お互いを敬する心が表れていないといけません。安岡先生は人間の本質には愛とか敬とかがあがるが、敬は人間にしかないもので人間にとって一番大事だと言っています。

オリンピックはこれから終盤の競技がありますが、3. 11で世界が驚いたように日本人の魂を発揮していただきたいと思います。



## 2, 695回例会 2012. 8. 10(金)

皆様のお手元に「重職心得箇条」をお配りしました。これは前回話しました佐藤一斎の言葉です。その中の八条が「忙中閑あり」の趣旨ですのでご覧ください。⇒『八 重職たるもの、勤向繁多と云う口上は恥ずべき事なり。仮令世話敷とも世話敷と云わぬが能きなり。随分手のすき、心に有余あるに非れば、大事に心付かぬもの也。重職小事を自らし、諸役に任使用する事能わざる故に、諸役自然ともたれる所ありて、重職多事になる勢あり』

連絡ですが、以前お話した下諏訪のコソボ室内管弦楽団を率いている柳澤寿男さんですが、10月8日に松本でバルカン室内管弦楽団を率いて演奏会を行うことになりました。柳澤寿男さんは民族紛争の解決等平和活動をしておられることやRIの方針「奉仕を通じて平和を」にも合致することから寄付を募ることとしましたのでご協力をお願いします。

今朝は3時頃目が覚めましてテレビを点けると女子サッカーの試合が始まりました。日本は相当期待されていましたが、残念ながらアメリカに2対1で負けてしまいました。見ているとたいへん気持ちの良いプレーを両チームがしており、流石に世界の1番、2番のチームは違うなあと思いました。選手交代ではきちんと「礼」をされていていいなあと思いました。

今月は会員増強月間です。会員を増やそうとすることは良いことですが、大事なものは「友を増やそう、交わりを増やそう」ということがロータリー一筋だと思います。今日は「朋友」についてお話しします。朋友には「素友」と「老友」の2種類があり共に「よい友」という意味があります。素友とは理屈抜きの友であり、ごく自然に出来た友人、素行の友ということです。老友とは長年交友した友、長い人生を共に生きてきた友ということです。

友達の交わりには「淡交」がありますが、荘子「君子之交淡如水、小人之交甘如醴」と言うように淡とは何とも言えない至極の味という意味です。淡は水のことで、水は何とも言えない至極の味であり死期に際し欲するものです。淡交とは共に人生を味わい尽くして、何とも言えない味のある交友だということです。ぜひ会員を増やし友と語り合いたいと思います。



## 2, 696回例会 2012. 8. 17(金)

会員の皆様、ご家族の皆様、ローターアクトの皆様ようこそお出で下さいました。本日は今年度初めての家族例会です、最後まで楽しんでいただきたく思います。

先日、陰と陽の話の中で家庭平和の原則についてお話ししました。その中で51%の権限が女性にあることが家族平和の原則であるとお話ししましたが、その後多くの方から「我が家はもっと率が高い」とお聞きし、ロータリアンは真にうまくやっつけらっしゃると思いました。

さて、今年は皆さんと一緒に安岡正篤先生のことを勉強しようと思っています。安岡先生の言葉の中で「縁尋機妙」と「多逢勝因」がよく出てまいります。縁尋機妙とは「よい縁が更により縁を尋ねていく仕方が実に機妙である」という意味です。多逢勝因とは「よい人に交わっていると、気づかぬうちによい結果に恵まれる」という意味です。ロータリークラブは本当により友がいらっしゃいますので、そういう方々と今日は大いに交流して、大により縁を掴みたいと思います。



## 2, 697回例会 2012. 8. 24(金)

おはようございます、多くの皆様が清々しい朝の時間にお集まりいただきありがとうございました。また、早朝例会に場所をご提供いただきました法光寺の小口秀孝会員にお礼申し上げます。

今日は早朝例会ですので「朝」についてお話します。「機」とは「つぼ、勘どころ」という意味があることを忘れていました。例えば「機を見るに敏」というとなるほど「つぼ、勘どころ」という意味だとわかります。「『機』のうち私たちが最も大切にしなければいけないのは朝であり、『活きた時間』は朝だけだ」と安岡先生は言っています。言い換えれば、本当の朝を我々は持たなければ一日が上手くいかないということです。朝というのは本当に新鮮であり生命に溢れています。新鮮というのは生命の最もみずみずしい姿のことです。例えば新婚夫婦は確かにみずみずしく思います。

如何に新鮮で在り得るか。それについて安岡先生は「真理を学ばなければいけない。正しい歴史伝統に従った、深い哲理、真理を学び、根ざす必要がある」と言っています。

人生の朝というと青春時代、青少年時代ということになるかもしれません。事業にも朝はあり100年続く事業だとすると最初の10年、20年にあたります。ギリシャの有名な格言に“in the morning of life work ; in the midday give counsel ; in the evening pray”がありますが、「朝は働いて、昼は助言し、夕は祈りなさい」ということで大変意味深い言葉だと思います。



## 2, 698回例会 2012. 9. 7(金)

先週の例会は休会でゆっくり過ごされた方も多いと思います。私は一週間海外へまいりまして久しぶりに仕事をしたなあと充実感を味わってまいりました。

前は早朝例会でしたが、法光寺の小口さんには大変お世話になり、朝の清々しい空気を吸ってとても気持ちの良い一日になりました。今月は新世代月間です。本日は新世代の諏訪ローターアクトの小池会長をお迎えしましたので、親と子のあり方についてお話しします。私は安岡正篤さんの本が好きで朝によく読んでいますが、朝読むと一日が清々しく感じられます。ある方から「私が昔から読んでいる安岡先生の本をあげるよ」と言われ「耕心」と「関西師友」をいただきました。読んでみると大変清々しく、我々はもっと心を大事にしないとイケない、もっと心を耕さないといけない、もっと学びの道を進めなければいけないと書かれています。人間は動物の中で唯一敬することができるのが特徴で、愛は動物も持っているが、尊敬する意識は人間しかない。そのような意識がなければ人間にはならない。母親は愛の対象であり、父親は敬する対象でなければいけないということで、今日はその中から「父と子」の部分を読んでご紹介します。『今日、人間性格の基本は3歳ないし4、5歳の頃に定まるとしておることは周知の事実である。この時期の幼児が持っている本性(専門学的用語の一つで言えばプロプリウム)はけっして簡単なものではない。この時期に豊かな溢れるような自愛を満喫したい本能的要求は強いが、それはどちらかという食欲とあまり変わらない生物学的性質をも含んだものである。幼児の本性(プロプリウム)が発動してくるにつれて自我の目覚めがあり、自我の起用から早くも理想の自我像、自我の理想像を描くようになる。そこに生ずる心理が敬である。これにより初めて生物的人間が人格的人間に進化するのである。程子や朱子、カントはそれぞれ敬の心を力説したが、そもそも孔子の「不敬何以別(敬せずんば、何を以ってかわかたんや)」の一語に尽かされていると言っている。かわいい帽子や靴を顧みず、父の大きな帽子をすっぽり被り靴を引きずって歩く幼児の漫画的行動は、けっして単なる笑い事でなくて子供の間人として成長する微妙な機事である。「まあ何をやるのこの子は」と爆笑していきなりその帽子や靴を取り上げるような母親は実は語るに堪えない。その子の父に向かって「どうですこの子は、もうあなたになるつもりなのです。あなたしっかりしてくださいよ」と敬愛を込めて語るべきところである。幼児の本能、心理状態は理知的な成人の到底わからないほど微妙な関心をもって両親や家庭の実況の中に育つ。お天気や風邪や麻疹と同じようにその状況に感染する。従来父も師も家庭教育を重んずる者は無かったが、皆母の愛を主とし父を付け足しに扱い、父もそれで責任を免れ家庭を安息所としてわがままやだらしさを子供に見せて恥とせず、むしろそれを人間味として自ら許すのが常であった。

したがって家庭は夫婦不満のごみ箱となり、妻は夫に対する不満を子供に訴える。人間の失敗、墮落の種はここに根差すと言って過言ではない。それでは父は子供の幼いころからやかましく教えなければならぬのかと思うならば、それは間違いである。父は前記のように幼児の直接の理想像なのであるから、子供の持つ本性の敬の目覚めを乱さぬようにあることが大切である。理屈でもない、強制でもない、威迫でもないありのままに敬愛そのものでなければならぬ』と安岡先生は書いています。

なるほど反省する部分が多いと思います。もう私たちは子供と対するには遅きに失しましたが、アクトの小池さんはこれからですのでそんなことを心に持ちながら歩んでいただきたいと思います。これからの若者に大いに期待することをお話ししました。



## 2,699回例会 2012.9.14(金)

今日はゴルフ例会です。大変良い天気恵まれプレーできることはありがたいと思います。

このところ中国に行っており昨日は東京で今朝帰ってきましたが、東京は朝から蒸し暑く特急あずさの中は年配の登山客がずいぶん乗っており、これは高原の清々しさを満喫しに来るんだなあと思いました。

今日はたいへん清々しい天候の中でゴルフができるので皆さんも楽しみにしていると思います。私は今年一回目のゴルフでして、しばらくゴルフを忘れていましたので今朝出発の準備の際は大変慌てました。今日は皆さんに迷惑をかけないようにやりたいと思っています。今日は大いに楽しんでいただき、この良い日を過ごしていただければと思います。



## 2, 700回例会 2012. 9. 21(金)

本日は早朝例会にもかかわらず大変大勢のメンバーの方に参加いただきありがとうございます。今日は小池岳太さんのお話を聞けるので集まっていた方も多いと思います。やはりロータリーのメンバーは早起きで一日を大事にしているなあと思いました。

明日は秋分の日です。昼と夜の長さが同じということですが、新聞によると実際は明日の日の出が5時30分、日の入りが17時49分で20分ほど昼が長いようです。不思議に思いましたが話すと1時間くらいかかりますので、簡単に言うと屈折によるものだとしておきます。朝晩が涼しくなまってまいりまして秋の訪れを感じます。秋は夜長をどう過ごすかを考えるなど精神的にも充実する時期です。今日は「元気」についてお話しします。

安岡先生は『人間にとって大事なことは「元気」だ。元気というのは「骨力」と同じである。「元気」というのは非常に難しい言葉だ』とされています。我々はよく「元気で良いね」と話しますが、それぞれの言葉を見ますと「元」にはいろいろな意味があります。宇宙的には「大きい」とか「普遍的」という意味があります。これは例えば「元首」とか「元帥」という言葉ありますが、そういう意味で表現されているかもしれません。また、空間的には「もと」という意味があり、これは「元本」とか「元素」で使われています。時間的には「はじめ」という意味があり、「元旦」は一年の初めとして使われています。いろいろ意味はありますが「元」とは一切の「もと」であり「はじめ」となる大いなる言葉です。そして「気」とは、気力とか申しますが「エネルギー」「クリエイイトする力＝想像力」であります。

「元気」は、その二つの重要な意味から成り立つ非常に根本的な要素を含んだ言葉です。これに対して「客気」は、お客様が来ていると思ったらいつの間にか居なくなるというように、元気そうに見えるが続かないという意味です。「元気」は途中でへこたれない、何事があっても常に澆刺として変わらぬ想像力と活動力を持続することです。したがって「元気、骨力」は、同じ力でも物質的意味の「体力」よりも精神的な意味の力です。『人間のどこが一番人間らしいかという、それは肉体的よりも精神的であることです。精神的なものを失ったら、もうこれは人間として墮落していることだ』と安岡先生は言っています。我々は大いに「元気」でありたいと思います。

最後に、先日9月15日に山崎さんが発起人で「丸茂真先生を偲ぶ会」を浜の湯さんで行いました。多くのロータリーのメンバーに出席いただき、丸茂先生の人柄が偲ばれ、生き方を教えられるような会でした。ありがとうございました。



## 2, 701回例会 2012. 9. 28(金)

前回の早朝例会には大変多くの方にご出席いただきありがとうございました。前回は「元気」についてお話ししましたが、その中で元気とは精神性が強い、気力は大切だということでした。本日は「精神を澆刺とさせる心がけ」についてお話します。

安岡正篤先生はよく人に「どうしてあなたは体が弱く、病弱な体質なのにそんなに元気なのか、精力的なのか」と聞かれるそうです。そうすると先生は「一寸の注意が大事だ。一寸の注意で仕事を続けても疲れず、人と話をしても声が通る」と答えるそうです。一寸の注意とは何かというと先生は「心を養うことだ。疲れずに毎日元気に続けるために大事なことは、つまらぬことに気を散らさぬことだ」と言っています。無心とか無欲と言いますが、この言葉を先生は「何も欲しないということではなく、つまらぬことに気を散らさぬことだ。そして感激性を持って何かに向かうことだ」と言っています。

論語の中にも同様に、ある人が孔子の弟子の子路に「孔子とはどんな人か」と問うたが、子路は残念ながら答えられなかった。その話を孔子が聞き「子路よ、なぜこう言わなかったのか。孔先生は物に感激しては食うことも忘れ、努力の中に楽しんで憂いを忘れ、年を取ること知らない人だと(葉公問孔子於子路、子路不對、子曰、女奚不曰、其爲人也、發憤忘食、樂以忘憂、不知老之將至也云爾)」と言ったそうです。

我々が早く老いる原因は肉体よりも精神にあるようです。安岡先生は精神を澆刺とさせるための三つの心掛けを言われています。「精神に感激性のなくなることによって年をとる。一、心中常に喜神を含むこと＝人から誇られ、たとえ怒っても反省し、これで鍛えてくれたと思う。そして結構結構と考える。二、心中絶えず感謝の念を含むこと。三、常に陰徳を志すこと」ロータリーの精神にも通じると感じました。



## 2,702回例会 2012.10.5(金)

今日は10月5日、中国はまだ国慶節のお祭りをしているところもあります。中国に行きますとお祭りの時には「福」という字が飾られます。その中には逆さまに飾られた福もあります。中国語では逆さまに倒れるという意味の「倒」と、到着するという意味の「到」があり、両方とも発音は「たお」で同じです。逆さまに飾るのは「福が来る」という縁起を担いでいるということです。

私は今日のような夜間例会となると幸福な気持ちになります。幸福の「幸」は好事でも、自分の苦心努力によらず偶然他から与えられたものという意味です。「福」はその逆で、自分の苦心努力で作出した好事という意味です。我々も常にそんな心構えでいきたいと思います。

私は今回安岡正篤さんをテーマに話をしています。今までの話の中では「六中観」「運命」「福」ということを話していますが、いずれも前向きに進んでいくということです。まさに我々ロータリーの精神だと思います。



## 2, 703回例会 2012. 10. 12(金)

10月になり大変気持ちの良い秋の空気になりました。本日は宮川先生のお話を楽しみにしています。10月はいろいろな行事があります。明日から地区大会です。参加される皆さんは秋の佐久路を満喫していただきたいと思います。

10月は職業奉仕月間です。安岡正篤先生は学問を分類すると三つあると言われています。

一つは「知識の学問」で理解力、記憶力、判断力、推理力です。

二つ目は「知恵の学問」です。これは知識よりも大事で体験や反省を通じて人格的に向上することです。昨日私はベトナムから帰ってきました。ベトナム経済は低迷していると報道されていますが、6月に行った時はバイクが相当行き来して賑やかでしたが、8月に行きましたらバイクの数がすっかり減っていました。ベトナムでは何かあったのかなあと感じましたが、まさに見聞きすることが知恵の学問になるかと思いましたが、どうもそれは知識の段階のようです。これをどのように人格的に役立てるかというところまでいかないと知恵の学問にはなりません。

三つ目は「徳恵(とくけい)の学問」です。これは徳を積みそれ以上にいかなければいけないということです。ドイツでは知識だけ教える先生を「レーゼマイスター」と言い、人間を作ることができる先生は「レーベマイスター」と言います。

それでは学問の目的は何かと言いますと、儒教では荀子が「夫れ学は通の為に非ざるなり。窮して困(くるし)まず、憂えて意(こころ)衰えざる為なり。禍福終始を知って惑わざるが為なり」と言っています。つまり「学」というのは立身出世や就職のためではなく、どんなに窮しても苦しまない、どんな心配があってもへこたれないためにするものです。何が幸いか、どうすれば終わり、どう終わればどう始まるかは無限である。移り変わる世の中に動じてはならないということです。

中国の古い歴史書である「書経(しょけい)」に「自ら靖(やす)んじ、自ら献ずる」これが学の目的であると書かれています。これは「内面的には良心の安らかな満足を得、また外に発しては、世のため、人のため、自己を献ずる」ということです。まさに外に発するという事は職業を通じて世のため、人のためになるということです。

職業の意味には二つあり、一つは生活を営むため。もう一つ大事なものは仕事を通じて何らかの意味において世のため人のためになることです。荀子は紀元前310年位に生まれた人ですから、既に2000年前から職業奉仕のことを言われていたのだと改めて感じ入りました。



## 2, 704回例会 2012. 10. 19(金)

本日は島田ガバナーをお迎えして私も緊張しております。先日は地区大会大変お疲れ様でした。大変すばらしい地区大会に出席させていただきました。

今月は職業奉仕月間です。10月8日は「木の日」でした。漢字の十に八を重ねると木の字になることのようにです。

幸田露伴がエッセイ「樹の相」の中で木の五衰について書いていますので紹介します。「木の五衰には、1. 懐(ふところ)の蒸れ:木が茂りすぎると風通しが悪くなって中の葉は日が通らないので弱ってくる。木が弱る最初の現象です。2. 根上がり(根が沈降しない):元気がないので石に中ると根が上がってしまう。3. 末(うら)止まり:成長が止まる。4. 虫食い。5. うら枯れる」と書いています。

安岡正篤先生はそれを人に例え「人間の五衰とは1. いろいろの欲を出したり、修養しないと人間の風通しが悪くなる。情報が入ってこなくなる。2. 自分自身が軽薄になったり、オッチョコチョイになる。3. 進歩が止まる。4. 悪いことに親しむようになる。つまり虫が食う。5. 没落することとなる」と言っています。

木も人間も五衰では同じです。一番大事なのは木でいうと「剪定すること」、人間でいうと「反省をすること、省みること」です。



## 2, 705回例会 2012. 10. 26(金)

先週はガバナー訪問がありました。良い天気の下記念撮影ができました。最近秋の深まりを感じます。2日ほど前には八ヶ岳に初冠雪がありました。寒くなってきましたので体調にはお気を付け下さい。長田幹事さんが体調を崩されましたので、今後は笠原副幹事さんよろしくをお願いします。

技能五輪大会が10/26～10/29まで松本と諏訪をメイン会場に始まりました。種目によっては今週月曜から始まっています。月曜日に私は旋盤の技能大会を見てきました。旧北沢バルヴのメッセ会場でしたが選手は半袖で作業をしていました。驚いたのは女性の選手がいたことです。競技は制限時間の5時間で6部品を削り組み立てる内容です。皆さんも機会がありましたらご覧いただきたいと思います。

本日は「命(めい)」についてお話しします。「命」は東洋哲学で最も大切な問題の一つです。孔子の論語には「命を知らざれば以って君子たることなきなり」(自分に与えられた天命を理解しなければ、人々の手本となって指導する事などできない)、孟子は盡心章の中で「妖寿(ようじゅ)たがわず、身を修めて以ってこれを持つは、命を立つる所以(ゆえん)なり」(人間の寿命は天命によって決められており、修養に努めてその天命を待つのが人間の本分である)と書いています。安岡先生は「いのち」は「命」のごく一部分であり、「命」にはもっと広い意味があると言っています。「命」とは絶対的で、必然的な何かを表しています。例えば「命令」は違反は許されない権威を持った言葉です。「生命」は好むと好まざるにかかわらず必然です。「命名」は人生に係るものなのでいい加減につけてはいけないものです。数学的には必然にして十分なことの意味です。

「命」は究め尽くすことが大切です。例えば技能五輪の選手たちは今一心不乱に競技していますが、普通の人ではわからない一段も二段も上の極致に至ります。機械の技術者であれば音を聞いただけで機械の具合がわかります。整骨の分野であればその人の歩き方を見ただけで体調がわかってしまうなど、そこまで究め尽くさないといけないということです。命を究めると最後は「宇宙・天・神」といった問題にぶつかります。

「運命」という言葉がありますが、その名の通り「命」が動いて止まらないから「運命」です。運命を良くするためには法則があります。それは自分の自主性を発揮してそれを高めることが大事です。そのために学問や修養が大切です。冒頭にお話した「命を知らざれば以って君子たることなきなり」は、自分はどのような者かをよく知り自分がどういうことに秀でているか、適しているかを探し、それに全力を尽くして進むことが「命を知る」や「命を立つ」ことになります。大事なことは「命を究める」ことです。人として生まれたからには自分を究尽し修養することが大切です。以上東洋哲学の生粋の部分をお話ししました。



## 2, 706回例会 2012. 11. 2(金)

ホームページに綺麗な赤いもみじが掲載されています。紅葉は昼夜の温度差と適度な湿気と強い太陽の光があると綺麗になります。今年は大変きれいな紅葉です。我が社にもベトナムから従業員が来ておりますが、ベトナムは常夏で紅葉はありませんので時々葉の色が変わってもあまり喜びがありません。日本人は深みを知っていると思います。

今日は「素行」についてお話します。素行は四書五経のひとつである「中庸」の中にある言葉で、「君子は其の位に素(そ)にて行い、その外を願わず、富貴に素しては富貴に行い、貧賤(ひんせん)に素しては貧賤に行う。夷狄(いてき)に素しては夷狄に行い、患難(かんなん)に素しては患難に行う。君子入るとして自得せざるなし」(優れた人は現在の地位に付随する使命を自覚し、それを果たすべく力を尽くし、それ以外のことは願わない。生活も富貴であれば富貴な生活をし、貧賤であれば貧賤の生活に甘んじる。少しも拘るものではない)というもので、江戸時代前期の有名な儒学者「山鹿素行」もここから号をとっているようです。リーダーは自分の立場や現実から遊離してはいけない、他人の仕事を羨んではいけないということです。

今、経済も政治も皆が駄目だと言っているけれども、10月19日の朝日新聞に政治学者の豊永郁子さんが「日本人はまだまだ幸せになる努力が足りない。日本は流血もなく政権交代が行われる世界に類を見ない平和な国である」と言っていました。安岡先生は「明治維新は無血革命であり、こんな国はない。日本はあまりに恵まれているので、かえって家庭のありがたみ、父母の恩をわからない人が多く、そして隣の家が良く見える。正に其の位に素にて行い、その外を願わずが大事だ」と言っています。そして「自得」ということは、自分をつかむことであり、人間一番失いやすいものは自己であるので、自分をどれだけ知っているかが大切です。このような深味を理解出来たら人生はもっと楽しいと思います。



## 2, 707回例会 2012. 11. 11(日)

皆様おはようございます。大変大勢の皆様にご参加いただき本当に有り難う御座いました。また今回のバスハイクには多くの女性の方々にもご参加いただき有難うございました。

立冬も過ぎて諏訪の地は寒さも増して来るこの頃ですが、今年は紅葉が綺麗ですので、紅葉で心を癒したり、お酒で喉を癒したり、色々な癒しにより今日の旅行が充実したものになるよう願っております。皆様日頃お忙しいとは存じますが、更に忙しい日々を送っているのが女性の方々ですので、ご自身の癒しだけでなく奥様方の癒しにも心配りいただきたいと思います。私はスカイツリーは初めてですので、今日は世界で一番高いタワーに登れることを楽しみにしています。一日よろしくお願ひします。



## 2, 708回例会 2012. 11. 16(金)

小池先生ようこそおいで下さいました。後ほど卓話をよろしく願いたします。

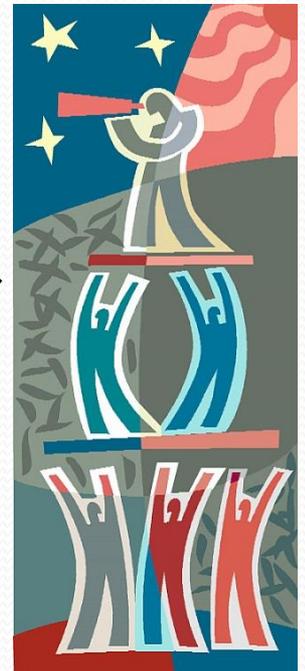
昨日から諏訪工業メッセが始まりました。ご存じのとおり山崎壯一さんが6市町村に声をかけて実現できました。ロータリーとしても大変誇らしいイベントです。本年は参加企業が大変多く337社と今までにない規模で開催しています。明日までやっていますので是非お出かけください。

今日は「自反」についてお話します。皆さんもよくご存じのとおり孟子の言葉の一節に「自反而縮、雖千萬人、吾往矣」(みづからかへりみてなをくんば、せんまんにんといへどもわれゆかむ: 自分の行いを振り返ってみてそれが正しい事ならば、たとえ敵が一千万人いようと私は自分の道を進んで行こう、という意味)がありますが、君子は自ら反る(かえる)とは、自分で自分に反るということで「自省」と同じ意味です。例えば歩いていて石につまずいた時に腹をたて石を蹴飛ばすようではだめであり、嗚呼うっかりしていたなあと反省することが大事です。武士の世界においては迂闊である、修行が足りないと言われます。うっかりしていたことを自ら反省することが進歩につながります。

「自反」に対して「自己疎外」という言葉があります。同じことを日本人が言ってもなかなか信じないが、外国人が言うと言信じるなど、いたずらに外の物を追い自分のことは棚に上げて疎かにしてしまうことは良くないと言われます。外にばかり目や心を奪われずに自分というもの、内面生活というものを大切にすることが大事です。

14日の党首討論を聞いていましたが、野田総理は子供の頃の話をしていました。通知表の成績は悪かったが、「野田君は正直の上に馬鹿が付く」との先生の評価を見たお父さんは大変喜んだと述べていました。そんな私だから解散時期について嘘を吐くはずがないと、これは野田総理の自反ではないかと思いました。討論を聞き野田総理は男性的に、安倍総裁はかすんでしまったように感じました。

安岡先生は「集団」についても話をしています。その中でシュバイツァーは「集団が個人の上に、個人が集団の上に作用するよりも強い作用を及ぼす時は、下降、墮落が生じる。なぜならば本来集団を形成している個人の偉大さや精神のおよび論理的価値性が必然に侵害されるからである」と言っています。要するに個人は非常に大事であり、集団に侵害され埋もれてしまうと全体が下降したり墮落が始まるということです。自反に対して集団は自ら省みないので、個人は非常に大事です。時代の流行や大衆の動向に支配されないことが大事です。「自分の良心や古来の真理、これを敬虔に学ぶことによって初めて人間の尊敬、社会の進歩が生じる」と言っています。



## 2, 709回例会 2012. 11. 30(金)

本日は職場例会ということで素晴らしい会場と職場見学という機会を与えて下さいましたエルシーブイ株式会社様に感謝致します。

本日は三国志の中に出てくる蜀の軍師・諸葛孔明が述べているところの「徳」についてお話します。三国志は好きな本ですが、その後半の主人公ともいえる諸葛孔明は大変な人物で、自分というものに沈潜し自己を確立した人です。当時中国には大学を出ている人が3万人いましたが、何れも器の小さい人物で、これほどの逸材はいないと安岡先生は言っています。要するに先日お話ししました、自反・自立のできた人物です。その眼をもって世の中、時代の趨勢を検討するような規模の大きな人だった。その孔明の書の中に其の子を誡むるの書があり「君子の行は静以て身を修め、儉以て徳を養う」と言っております。静を以て身を修めるとは荒まないように落ち着いて身を整えるということです。人生は静と動で成り立っていて、呼吸や脈拍は生命の動的な面ですが、あらゆる細胞器官の調和・統一の上に機能していて、そこに限りない落ち着きと和があります。静と動とは別々のものではなく調和・統一がとれていて静になるということです。息が荒いと言うことは、調和が保たれない証拠で静が動になったり騒になったりします。儉を以てとは無駄遣いしないことであり、徳を養うとは人間を精神的存在としてみると徳が本質であり根本であるので、知や技能という第二義的なものよりも、人を愛する・人に尽くす・人に報いる・人を助けるといった本幹を養うということです。



## 2, 710回例会 2012. 12. 7(金)

会長告知を始めて本日で21回目になりますが「安岡さんはどんな人？」と良く耳にします。本日はお手元に安岡さんの資料を用意しましたのでご覧ください。

いよいよ12月16日の投票日が近づいてまいりました。自民党圧勝という気配ですが、第三極にも目が離せない気がいたします。活力が湧き自信の持てる日本を作っていってほしいものです。

安岡先生は東洋宰相学(内閣総理大臣、首相)の中で『政治というものは宰相の如何による、というのは昔からの鉄則ですぐれた宰相がいるかどうかで国政もまったく変わってくる。「宰相学」をやろうと思うと「政治とは何だ」ということになる。そうすると結極「政治とは人物だ」ということになる。突き詰めて行くと「人間学」となる。中国は治乱興亡の歴史であり、王朝だけでも二十四史五史という位革命が多く治乱興亡を続けてきたので、宰相学、大臣学、人間学というものが発達してきた。そこで、人の見方に「八観、六驗」というものがある』と話されています。

八観六驗は秦時代の呂不韋「呂氏春秋」に書かれており、人間を見るのに八つの見方があると言われています。

一、「通ずれば其の礼する所を観る」=だんだん出世してきて何を礼するか。最も卑しいのはお金にお辞儀をすることで拝金主義が一番下等である。

二、「貴(きよ)ければ其の進む所を観る」=地位が上がるにつれて優れた人材を集める、推薦するのがよい。

三、「富めば其の養う所を観る」=富を集めて富で何をしたかを見る。

四、「聴けば其の行う所を観る」=他人の言葉を聞いてどう行動したか見る。

五、「止(いた・とどま)れば其の好む所を観る」=止は足型の意でそこに到達した証拠です。名声を得たとき何をしたかを見る。

六、「習えば其のいう所を観る」=習うは羽に白は鳥の胴体を表し、雛が飛ぶことの稽古により大人になることを学ぶことです。体で勉強することが大事で、人間は話題や話を観察するとその人物がわかる。

七、「窮すれば其の受けざる所を観る」=どんなに窮してもこれだけは受けないというものが人間にはなければならない。

八、「賤しければ其の為さざる所を観る」=不遇におかれてどう対処したか見る。

以上の観点から投票してほしいと思います。六驗は後ほど資料をご覧ください。



## 2, 711回例会 2012. 12. 14(金)

本年も残り少なく、いよいよ2012年も終わりが近づいてまいりました。ロータリーもあと一回クリスマス例会を残すだけとなりました。

この時期は一年の締め括りと一年の始まりを考えて過ごします。安岡先生も「師と友」の中で「年を送る」を記しています。年の暮れと年の初めは繰り返しますが、芭蕉門下の露川の「来年は、来年はとて暮れにけり」の句をもじると「今年も、今年もまた暮れにけり」＝来年は何をしようと思うけれども、また過ぎてしまい、また来年が来るということです。川柳の名句には「使うべき、金は使われ暮れにけり」＝使うべき金を貯めておいたが、使われずに何処かに行ってしまう年が暮れた。また、芭蕉の句に「うかうかと、年寄る人や古暦(ふるこよみ)」＝本当にうかうかしているとどんどん時は流れて行ってしまうということです。

安岡先生はうかうかせず充実した日々を送るための指針に「人生の五計」があると言っています。第一は「生計」、第二は「身計」、第三は「家計」、第四は「老計」、第五は「死計」です。

- ・「生計」は、いかに行くべきかという事で普通は暮らしや経済的な意味で使われますが、本質的な生き方のことです。安岡先生は「朝こそすべて」と言われていますが、中国清朝末期の偉人曾國藩は「黎明即起し、醒後露恋(せいごてんれん)する勿れ」(夜が明けたならすぐ起きる、目を覚ましたらぐずぐずしない、子供は目を覚ますと跳ね起きるがこれが健康な証拠である)のように大事なのは黎明即起し、醒後に何をするかだと言っています。
- ・「身計」は、我々の社会生活のあり方をどうするか、何をもって世に立つか、いかなる職業、価値観を持って生きていくかということです。
- ・「家計」は、家庭というものをどのように営んでいくかです。
- ・「老計」は、いかに年をとるかですが、世間の人はほとんどこの問題を考えておりません。せいぜい貯蓄や健康維持といった程度です。やはり「老」たるものの価値を生かしていかなければ、ただ寂しく年をとるにすぎないと言っています。
- ・「死計」は、我、いかに死ぬべきや。死計に対する思索でもっとも発達しているのは仏教です。儒教ではどのように生きるか「生」が本質です。儒教を代表する「易」も「生の道」を説いており、これも深く味わいがあります。



## 2, 712回例会 2012. 12. 21(金)

今日はクリスマス例会です。世界の中にはいろいろなクリスマスがあります。

キリスト教の中でもカトリックの影響の強いイタリア、ポーランド、フランス、スペインなどでは、クリスマスは12月25日に始まり、1月6日の公現祭(エピファニア)までやっています。子供達がプレゼントをもらうのは1月6日です。

オランダやドイツの一部地域などでは12月6日がニコラウスの日で、子ども達はプレゼントをもらいます。プレゼントをもらえるのはそれまでの1年間に良い子だった子どもだけで、悪い子は石炭を与えられたり木の枝で打たれることになっている地域もあります。

北欧のクリスマスはユールと呼ばれ、聖ルチア12月13日から始まります。ワラで作ったヤギを飾ること、妖精がプレゼントを持って来てくれることなど、独自の習慣が見られます。

イギリスでは日本と同じでサンタクロース(Father Christmas)が12月25日にプレゼントを持って来ます。

米国では、イギリス流のクリスマスが一般的で日本のクリスマスも米国流を受け継いでいます。またこの日には、クリスマスの挨拶にとクリスマスにちなんだ絵はがきやカード(グリーティングカード)を送る習慣があります。米国では、クリスマスプレゼントを家族全員で交換し合う習慣があり、外出するのは教会に行く時くらいで、家庭料理を味わったりするなど家族で過すのが一般的です。

クリスマスは愛の日とも言われていますが、安岡先生はこのクリスマスのインパクトのせい、日本では愛に対して「敬」が大事だと言っています。

論語の中にも「敬せずんば何を以てか別たん」=ただの愛だけでは動物でもあるもので、敬が生じなければいけない。とあります。

また、それに関して安岡先生は日本語はすごいと言っているのですが敬する、敬(うやま)うということをも日本語で「参る」と言う。神に参る、仏に参る、それが変化して、父の家に参るとか、何々して参るとなった。これは非常に良い言葉だと言っています。

西洋では男女が愛することをラブとかリーベンと言いますが、日本では「僕はあの女性に参った」と言う。これはただ愛することよりもっと進んで、あの女性は偉い、頭が下がるという意味ですから、参ったと言わなくては本当の愛ではないと言っています。

そして、もっと感服するのは勝負をして負けた時「参った」という事です。負けたら悔しい。つい、「クソツ」「畜生」なんて言うのはだいたいダメで、日本人の「参った」は負けた相手を偉いと認識する、感服することです。これは良い言葉だと言っています。



## 2, 713回例会 2013. 1. 11(金)

先日はクリスマス例会がありました、それから随分日が経ちました。今年の正月休みは各企業とも大型連休で皆様も十分充電できたと思います。

さて、本年は平成25年癸巳の年です。今日は新年ということで「新」についてお話します。「新」は新年、新春、新人、新聞、新進気鋭、新規などいろいろに使われています。本来の「新」という字は意味合いが少々違います。朝日新聞の新という字をよく見ると、立の下の木の上に一本棒があります。本来の新はそのように書くそうで、今は省略して書いています。本来の新の字は立でなく辛で、その下に木があり右に斤と書きます。

つまり、木を苦勞して斤で作ることの意味があります。したがって、一番大事なのは材料である立木であり、これにいろいろ苦心して手をかけ、品をかけ、道具を使って初めて新しいものが作れるということです。言い換えれば、本当の意味の新というのは、今までに無かったものが突然出現するのではなく、従来あったものを根を下ろして茂っていた立木に人間が苦勞して手数を加えて初めて生まれてくるものだと言安岡先生は言っています。歴史、伝統を無視したいわゆる突然変異というものはあり得ないのです。自然現象には突然変異はあると言うけれども、それは人間が言うのであって、自然から言うならば突然変異ではなく、そこには必ず根拠や歴史があってそこに人間の努力が加わり、初めて新しいものが生まれるのです。したがって、本質、根底のない新は軽薄浮薄のもので本当の新ではありません。

人というものは古い人間、故人や先人の一番進歩した人を新人ということが出来ます。樹木で言うならば根が深く伸びて、頼もしい幹があり、立派な枝葉が張り、春が来れば芽を吹き、夏が来れば枝を伸ばし葉を茂らせ花を開き、秋には実を結び、冬になると枯葉を落として根元を温める。こういう自然がきちんとあって新しいことをやらなければならない。つまり、根底・根幹を固めることが一番創造・進化の原則です。



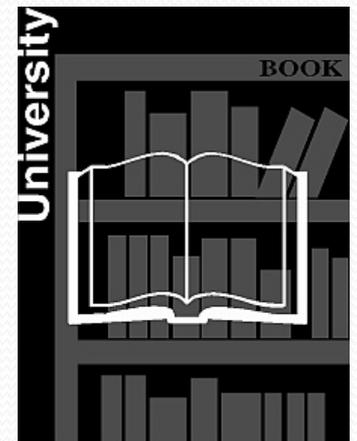
## 2, 714回例会 2013. 1. 18(金)

先日の例会は「新」についてお話ししました。昨年の内に小学や仏教についてお話ししようと思っておりましたが、いよいよ今日から小学に入ろうと思います。

儒教の根本の書に「四書」「五経」があります。四書は「大学」「中庸」「論語」「孟子」です。五経は「易経」「書経」「詩経」「礼記」「春秋」です。範囲を広げると「朱子学」では四書+『小学』と『近思録』の六つの書になります。馴染みがある言葉としては「大学」「小学」があります。大学は、人を治める学で政治哲学を説く学問です。大学の冒頭は「大学の道は明德を明らかにするにあり・・・」で始まり、「まことに日に新たなり。日々に新たなり。又日に新たなり。・・・」とあり経団連の土光敏夫さんは臨調で好きな文だと言っていました。

また「切磋琢磨＝切つするが如く、磋するが如く、琢するが如く、磨するが如し」も出てきます。それから「小人閑居して不善を為す」「心此処に在らざれば、視れども見えず、聴けども聞こえず、食えどもその味を知らず」「中らずと雖も遠からず」はお馴染みの言葉です。大学というものは随分我々の身近にあるものだと思います。

小学は、日常実践の学問で一番の基本です。人間生活のよって立つ基本はなんといっても道德です。「小学書題」は「朱晦庵題＝朱子」が小学をまとめたもので、如何に自己を修めるか、道德教育の学問が小学です。およそ1185年頃に書かれたそうです。一部を読むと「古(いにしえ)は小学、人を救うるに、灑掃(さいそう)・対応・進退の節、親を愛し、長を敬し、師を尊び、友に親しむの道を以てす。・・・」灑掃とは雑巾がけのことで、私も小学校の時はよく廊下を雑巾がけしたものです。人間は動物なので時々四つん這いになって拭き掃除をすると健康になると言っています。また、雑巾がけをしていると全くものを考えない、頭が真っ白になり疲れが取れるとも言っています。対応とは、人は対応によって決まってしまうということです。例えば、武道で相対した時にどちらが強いかわかってしまう、勝負が決まってしまうのが対応です。これからも安岡先生の言葉を皆さんと共に勉強してまいります。



## 2, 715回例会 2013. 1. 25(金)

最近は雪が多く寒い日が続いていますのでお体にはお気を付け下さい。本年は2年連続で御神渡りができ、今日は拝観式がありました。御神渡りができると随分と観光客も違うので諏訪にとっては良いことだと思います。

さて、前回から小学に入るとお話ししましたが、私自身小学はたいへん難しいと感じています。小学の意味には三つあります。一つは初級の学校、二つはいろいろの知識や学問の根底をなす文字・文章に関する学問、三つは我々の日常実践の学問です。

今日は「呂氏童蒙訓(りょしどうもうくん)」【呂本中りょ-ほんちゅう[1094~1145]中国、宋代の学者、思想家】についてお話しします。呂氏童蒙訓には「先輩、嘗て説く、後生の才性(さいせい)人に過る者は畏(おそ)るるに足らず、惟(た)だ読書尋思(じんし)推究する者畏るべしと為すのみ。また云う、読書は只尋思を怕(おそ)る。蓋(けだ)し義理の精深は、惟だ尋思し、意を用いて以て之を得べしと為す。鹵莽(ろぼう)にして煩(はん)を厭(いと)う者は決して成ること有るの理無し」とあります。

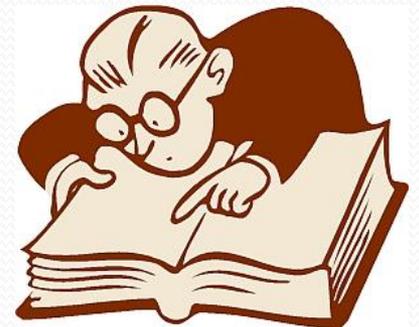
解説すると「先輩、嘗て説く、後生の才性人に過る者は畏るるに足らず」は、人間の本質をなすものは徳性があり、いろいろの知識・技能はその属性です。つまり、頭が良いとか文章が上手いといった才能の優れた者は決して畏れるに足りないということです。

「惟だ読書尋思推究する者畏るべしと為すのみ。また云う、読書は只尋思を怕る」の尋思は深く思いをめぐらすことで、怕るは肝腎という意味ですから、読書は深く思いをめぐらすことが肝要であるということです。読書というと先日はセンター試験がありました。国語の平均点が大きく下がったとの報道がありました。それは出題の小林秀雄の「鐔(つば)」という文書が大変難しく、読んで内容を見るだけで20分以上かかるそうで、受験生も深く思いをめぐらせる時間がなかったのでしょう。

「蓋し義理の精深は、惟だ尋思し、意を用いて以て之を得べしと為す」の義とは如何になすべきかという実践的判断で、理はその意味、法則です。義理が深いかどうかをよく考え、心を動かし初めて遂げるもので、昔の人は良く泣いたといわれますが、まさに深く心を動かしたことなのかもしれません。

「鹵莽にして煩を厭う者は決して成ること有るの理無し」の鹵莽は穴だらけ、節だらけで整理整頓ができていない雑駁な状態をいいます。つまり、乱雑、雑駁で手間のかかることを嫌がるような者は決して立派な人間にはならないということです。

最近便利になりましたが我々はその暇な時間をどのように使っているのか、手間の掛かることをきちんとやって成長しているのか、考えると少々避けていたのではないかと反省する毎日です。



## 2, 716回例会 2013. 2. 1(金)

前回まで小学のお話をいたしました。今月は世界理解月間ですので海外のお話をいたします。

私は2か月に一度1週間ほどベトナムに仕事に行っています。あちらは共産圏ですから組合活動が盛んです。ベトナムは南北に長い国で北にはハノイ、南にはホーチミンがあり2,000Km離れています。ハノイの冬は寒い時があり10度を下回る日がありますのでジャンパーが必要になります。私はホーチミンに行っていますが、雨季と乾季だけで年中半袖で過ごすことができる大変暑い所ですから年に4回米が採れる所もあります。メコンデルタという豊かな川がありますので放っておいても植物が生えてきますし、網を仕掛けておけば寝ている間に魚が獲れますから食べることには困らない所です。そのような所ですから中国と比べるとベトナムはのんびりとしており仕事熱心ではありません。ベトナム人は何があっても「ホンサオ/Khong sao!」(大丈夫、気にしない)と言います。タイもベトナムと似ており「マイペンライ/Mai Penrai」(気にしない)と言うそうです。給料をもらっても2~3日で飲んでしまい、窮すると前借りをするそうです。外は寒くないし、衣類も必要ないし、会社に行くにご飯が食べられるので彼らにとっては都合の良い所なのでしょう。

さて、先日日本商工会議所の資料を見ましたら、海外展開をする企業が増えているようで、ここ一年で2倍になったということです。製造業では41.4%の企業が海外に工場を持っています。我々の感覚より随分とグローバル化していると思いました。益々世界の人々と交流をしなければいけないと思います。

12/7の例会で「八観、六験」というお話をいたしました。今日は「五交」についてお話します。人と人が交流する場合には、大きく良い付き合い方と悪い付き合い方があります。一つは「素交」つまり質素な付き合い、裸の付き合いです。もう一つは「利交」つまり利を求めて付き合うことです。また「利交」には五交あり、一つは「勢交」=勢力のある人と交わる、二つ目が「賄交」=自分の出世のために金品を送る事です。中国では賄賂で家を贈ったという話がありますが、国の役人が来ると何かを渡さないと帰らないそうでたいへん驚きます。ベトナムは中国に比べるとかわいいものですが、賄賂は随分といき渡っているものだと思います。三つ目が「談交」=イデオロギーの同じ人と付き合う、四つ目は「窮交」=困ったことに同情して付き合う、最後が「量交」=打算的に付き合うことです。つまり悪いほうの交際「利交」には五つあります。海外にはいろいろな習慣があり付き合い方は難しいものですが、我々はあくまで「素交」の付き合いを心がけたいものです。



## 2, 717回例会 2013. 2. 8(金)

前回は小学から離れ、世界理解月間、ベトナム、人間の五交の話をさせていただきました。今日はまた小学の話にもどります。小学の話を一月の末にしましたが、話していても字が頭の中に出てこないと何を話しているか解らないので今日は皆さんのお手元に紙を一枚用意しました。1月27日と書いてあるのが前回の小学を話した部分であります。今日は2月8日と書いてある部分の話をして、次回はその次に記した部分を話す予定です。

小学にはいろんなものが詰まっています。最初は三不祥、三不幸がありますが、それは荀子とか伊川という人のものを朱子が引張ってきた部分であります。そのほかに「呂氏童蒙訓」前回話をした部分です。それから論語からも多数の文が小学に選ばれています。小学にはそれぞれの家訓もあります。また小学には食べ物、貧乏の事、学問の姿勢の事などいろいろと詰まっています。そのようなことから小学は徳学と言われる所以なのかと思います。

お手元の紙に2月8日の部分に「孫思ばく曰く」とありますが、これは「唐書」の隠逸伝(自分の考えをつづった読書録の一つ)であります。皆さん知っているかとは思いますが、「胆は大ならんことを欲し、而して心は小ならんことを欲す。」四文字熟語では「胆大心小」=胆は胆嚢、肝臓、心は心臓、人間の心理に独特の影響を与える。今日の生理学が解明しています。胆嚢、肝臓は実行力に影響をする。つまり「胆は大ならんことを欲す」は大きな実行力を持たなければならないということです。「而して心は小ならんことを欲す」は綿密な観察をする必要があるということです。

「智は円ならんことを欲し、而して行は方ならんことを欲す。」四文字熟語では「智円行方」=円は物事をまるく収める。円満に。智は物を統合、統一してまるく収めるのに使わなければならない。行は実践のこと。方は比較、区別するという意味。すなわち、実践することは相対関係を正しく筋道を立てなければいけないということです。このような四文字熟語は結婚式にも使われている言葉であります。



## 2, 718回例会 2013. 2. 15(金)

小学を始めまして今日で三回目になります。小学は前回話しました様に、いろいろな家訓、教えなどを選んだものでありますが、中国の儒学者の層の厚さに驚かされます。安岡先生は王陽明の陽明学研究の第一人者ですが、王陽明も儒学者の一人であります。ではどのぐらい儒教の偉い先生がいたかという、中国では数百人、日本では60~70人です。皆さんが知っている名前として、貝原益軒、中江藤樹、新井白石などがあります。

本日は「范益謙座右の戒」を、前回お配りした資料に沿ってお話をします。

一に、朝廷の利害・辺報・差除を言わず。安岡先生は、内情の分からないものが政府のいろいろな問題をとやかく言うのはいけない。考えてみると、尖閣問題も之に類するものかもしれません。

二に、州県官員の長短得失を言わず。良いの悪いの、儲かった損したと言ってはいけない。

三に、衆人作なす所の過悪を言わず。民衆が行ったあやまちや悪事を言ってはいけない。

四に、仕進官職、時に趨勢に附つくを言わず。時の勢力にくっついて走り回るようなことを行ってはいけない。

五に、財利の多少、貧厭、富を求むるを言わず。

六に、淫せつ・戯慢・女色を評論するを言わず。

七に、人の物を求覓し、酒食を干索することを言わず。人の物を求めたり、酒食を催促してはいけない。

そして又曰く、とあり。

一に、人書信を附すれば開析沈滞すべからず。

二に、人と並び坐して人の私書を窺うふべからず。

三に、凡人の家に入りて人の文字を見るべからず。

四に、凡て人の物を借りて損壊不還すべからず。

五に、凡て養食を喫するに揀擇去取すべからず。

六に、人と同じく処るに、自ら便利を擇べからず。

七に、人の富貴を見て嘆羨詆毀すべからず。

そして安岡先生は、私生活は貯水池の様な物で、なるべく別天地にしておきたいものである。気を付けなければならないこととして、同職の夫婦は特に注意したほうが良い。その意味で、男女は違わなければならないと言っています。



## 2, 719回例会 2013. 2. 22(金)

先日のIMは大変お疲れ様でした。特に実行委員会の皆様は準備からいろいろ大変だったと思います、大変内容の濃い密度の高いIMでした。懇親会も盛り上がりました。

さて、今日は小学の中から友との交友、師弟の関係についてお話しします。その前に、安岡先生の本を読んでいるとよく字の話が出てきます。字の意味では新年の「新」について話しましたし、元旦の「旦」や宰相の「相」などいろいろな意味があります。儒教では「仁義礼智信の五常」があり日本人の名前の中にもよく使われています。太田さんの信は嘘を吐かないという意味がありますし、朝倉さんの仁は思いやりの心という意味があります。

友との交友、師弟の関係について論語の子路篇の中に「孔子曰く、朋友は切々偲々(せつせつし)たり。兄弟は怡々(いい)たり」とあります。切々偲々とは心をよく行き届かせるという意味です。「朋友は切々偲々たり」は、朋友とは磨き合うことができる関係でなければいけないということです。「兄弟は怡々たり」は、兄弟とはいつも和やかにいなければいけないということです。この意味は奥が深いと安岡先生は言っています。

孟子にも「父子の間は善を責めず」があり、善を責むると離れる、(父と子が)離れると則ち不祥となると言っています。つまり兄弟、親子の肉親の間では注文することや責めたりすることはいけないということです。もし責めると親子の間は離れてしまいます。肉親は繋がって一体でなければいけない、たとえ善、良いことを指導するときもこれを責めるのは良くないと言っています。

ところが、愛情を豊かに持ち浸っているだけだとだらけてしまう。そこで切磋琢磨して磨き合うことが必要です。そのために親子の間でできないことを師や友に託し教育してもらわねばなりません。ですから師弟とか朋友はお互いに磨き合うことが本義で、仲良くなってしまうのはいけないと言っています。

もう一つ、孟子は離婁(りろう)篇の中で「孟子曰く、善を責むるは朋友の道なり」と言っており、友達同士は大いに善を責めなさい、何を言っても構わない、大いに論じ合ってお互いを磨く、これが朋友である。これで怒ってしまうようであれば、これは友にするには当たらない人物だということです。

IMではいじめの問題がありましたが、本来の友や親子の関係はこうなければならないと小学には書いてあります。



## 2, 720回例会 2013. 3. 1(金)

3月は識字率向上月間です。日本は教育がしっかりしていますから文字が読めない人は居ないと思います。昔の中国では教養のある人と無い人では差が大きかったと聞いています。

今日は小学のお話をしますが、小学は本日で最後にしようと思います。本日は「九思」について話をいたします。「君子に九思あり」と言って君子には九つの「こうありたい」という思いがあります。

- 一、視(し)には明ならんことを思う＝視るときは明らかに視たいと思うことです。
- 二、聴(ちょう)には聡ならんことを思う＝聴くときははっきり聴きたいと思うことです。
- 三、色には温ならんことを思う＝顔色はおだやかでありたいと思うことです。
- 四、貌(ぼう)には恭ならんことを思う＝姿貌(かたち)は恭(うやうや)しくありたいと思うことです。
- 五、言には忠ならんことを思う＝言葉は良心に恥じないように思うことです。
- 六、事には敬ならんことを思う＝行動は慎重でありたいと思うことです。
- 七、疑には問わん事を思う＝疑わしいことはしかるべき人に問うことを思い疑問をいい加減にしないことです。
- 八、忿(いかり)には難を思う＝一時の怒りに厄介なことや悩みを思うことです。
- 九、得を見ては義を思う＝利得を前にした時は道義、つまり「これでいいかどうか」を考えることです。

調べてみると九思はいろいろなところで使われています。九思小学校や九思館といったものもあり有名な言葉です。安岡先生はこの中で「怒りというものが人間にとって一番良くないことだ」と言っています。

世界最初の医学書「素問」の中でも怒りが一番いけないと言われております。息の研究ではアメリカの医学書に息と怒りの関係について、怒りを覚えると息が毒になると書かれています。最も怒っている人の息を冷凍してモルモットに注射したところ頓死したそうです。がんに罹る人は怒りっぽいと言われております。

先生は怒りは鎮めるようにしなければいけない。そのために先生は呪文を持っており「オンニコニコ腹立つまいぞソワカ」と唱え、これが良いと言っています。しかし、怒らないと人間はダレルものですから、そこで私憤ではなく公憤を発することが良い。また、自分の不肖に対して怒ることは良いことだと言っています。

今日は九思の話をしました。小学はこれにて終了し、次回から新しい話をいたします。



## 2, 721回例会 2013. 3. 8(金)

昨日JALの再生を果たされた稲森和夫さんが3月末で取締役を退任するという報道がありました。氏はJALの指導でも良く酒を飲んで論じたり、胸襟を開いて仲良くなるため大騒ぎをするようであります。JCのOBを対象にした盛和塾でも勉強の後の議論を大切にされています。酒の席は腹を割って一種バカになって付き合いますがそれが大切なようです。

論語の中でも「子曰く、寧武子、邦に道有れば即ち知、邦に道無ければ即ち愚。その知や及ぶべく、その愚及ぶべからず」とあります。これは寧武子の頭の良いのは真似できるが、その「ばかっぷり」はとても及ぶべくもない。とういことで、孔子は愚を解する人であり、むしろ愚を高く評価していたようであります。

「馬鹿殿」という言葉がありますが、これは江戸時代中期の寛政年間にできていた言葉のようです。これを世の人は本当の馬鹿な殿様の意味に解していますが、実は殿様はその家臣には良くできた者も、そうでない者も、役に立つ者も、立たない者も、いろいろな家臣がいてその家臣を抱えて使いこなしていかなければならない。更に上には幕府がいて隙さえあればお家を取り潰してやろうと考えている。小利口な殿様ではとてもやっていけない。それこそ馬鹿にならなくては勤まらない。つまりは、礼讃の言葉です。

本日は、皆さん、馬鹿になって、腹を割って、大いに盛り上がりましょう。



## 2, 722回例会 2013. 3. 15(金)

先日の夜間例会は大変盛り上がりました。IMの方々、事務局の方々本当にご苦労様でした。

さて、昨日は中国の党大会があり習近平氏が国家主席になりました。習近平氏は党の総書記と中央軍事委員会主席、国家主席を握りました。日本と中国は尖閣諸島の領土問題を抱えていますが上手くいくといいなあと思います。

領土とは難しく、水面に出ている部分で見ると日本は世界の62位で大変小さな国です。排他的経済水域で見ると日本は6位の海洋国家で驚くほど広いと思います。排他的経済水域は国連の海洋法条約に基づいて制定されている経済的な主権がおよぶ水域のことです。その順位は1位がアメリカ、2位がオーストラリア、3位がインドネシア、4位がニュージーランド、5位がカナダ、6位が日本、7位が旧ソ連、中国は大変狭く日本の5分の1以下です。以上は科学技術庁の出典です。

尖閣問題では毎日自衛隊が広い海域、中国は狭い海域をパトロールしています。軍事費で見ると日本の防衛予算は4兆6800億円、中国は11兆1100億円ですから日本の2.4倍です。中国はその国防費を使って狭い海域をパトロールしていますから日本は分が悪い。そのような状況で日本は中国と対峙しています。

安岡先生の本を読んでいると中国人の国境(領土)意識というのは、ヨーロッパ諸国とは随分違うと言っています。ヨーロッパは狭い所にいろいろな国がひしめいていますから国境意識がしっかりしている。それに対し中国は民族が実現した文化だけが誇りであり生命という考え方です。中国では文化が及ぶ程度によって境界を作り、その文化の最も発達したところを「中」と言いました。漢詩を見ると「中原(ちゅうげん)」「中国」「中州(ちゅうしゅう)」は同意語で、異民族から隔てられた文明の中心地という意味です。中原は黄河中流域から西側にある平原で中華文化の発祥地です。その「中」を中心に外側へ順に「五服(むふく)」「甸(でん)服・侯服・綏(すい)服・要服・荒服」という区画を作り、またその外側の辺境の地を「東夷(とうい)」「西戎(せいじゅう)」「南蛮」「北狄(ほくてき)」と分け、さらにその外側を「化外(かがい)」と言って分類しています。台湾は化外に入ります。

魏徴(ぎちょう)という唐の政治家の詩に「中原環逐鹿(中原にまた鹿をおう)……人生感意気(人生意気に感ず)功名誰復論(功名誰かまた論ぜん)」=いよいよ中原を誰が執るか、誰が中国を握るかという意味です。

いよいよ中原が海にまで来てしまって困ったなあというのが今の状況です。国境問題は大変難しい問題ですが、まかり間違うと戦争になります。中国は今ベトナムやフィリピンと揉めています。ベトナム戦争は1975年に終わりましたが、中国は1974年に素早く領土を盗ってしまいました。その後発砲騒ぎも起きており、2003年にはフィリピンと軍事衝突が起きました。

日本も他人事ではありません。習近平氏にはぜひ上手くやっていただきたいと思います。



## 2, 723回例会 2013. 3. 29(金)



本日は皆さんのテーブルに『列氏』の「木鶏」の解説を配りました。

紀せい子(きせいし)、王のために闘鶏を養う。

十日にして、問う「鶏すでにするか」

曰く、「いまだし。まさに虚きょう(きょうきょう)にして気を恃(たの)む」

十日にしてまた問う。

曰く、「いまだし。なお嚮景(きょうえい)に応ず」

十日にしてまた問う。

曰く、「いまだし。なお疾視(しつし)して気を盛んにす」

十日にしてまた問う。

曰く、「幾(ちか)し。鶏、鳴くものありといえども、すでに変ずることなし。これを望むに木鶏に似たり。その徳全(まった)し。異鶏(いけい)あえて応ずるもなく、返り去らん」

列氏は紀元前300年前後の春秋戦国時代、老子や荘子の流れを汲む人です。その意識は、紀せい子が王の命令で軍鶏を調教訓練していた。十日ほどたった頃、王が「もう、戦えるか」と聞きました。ところが、紀せい子は「いや、まだまだです。むやみに空威張りして、『俺が』というところが有ります」と答えた。さらに、十日たって王が尋ねると、「いえ、まだまだです。ほかの軍鶏の声や姿に興奮するところが有ります」また十日たって王が尋ねた。「まだまだです。相手を見るとにらみつけ、圧倒しようとするところが有ります」こうしてさらに十日後、王が尋ねると、「やっともものになってきました。他の軍鶏が声をあげても、いっこうに動じません。まるで木彫りの軍鶏のようで、徳が身に付いた状態です。もはや他の軍鶏でかなうものはなく、後ろをむいて逃げ出すでしょう」

先日、白鵬が春場所で全勝優勝いたしました。全勝優勝9回は双葉山や大鵬の8回の記録を更新し歴代一番となりました。白鵬は本当に名横綱になりました。連勝記録で言うと双葉山が69連勝で一番、二位が白鵬で63連勝になります。

名横綱の双葉山ですが、安岡先生は双葉山と酒を酌み交わした時、一杯機嫌で「君もまだまだダメだ」と言ったそうです。すると双葉山は「どこがいけないとお考えですか」と慇懃(いんぎん)に尋ねました。そこで先生はこの木鶏の話をしたそうです。双葉山はその話に感じ入り、木鶏の額を書いてくれとか、木鶏の修業を始めたそうです。

第二次大戦の前、ちょうど安岡先生がヨーロッパに向かっていて船に70連勝を目指している双葉山から電報が届きました。ボーイが「おかしな電報が届きましたが、先生とにか一度ご覧下さい」と言ってきました。その内容は「イマダモッケイニイタラズ」でした。それを見た安岡先生は「なるほど、残念だ」と言ったそうです。双葉山が負けた報でありました。この話が船の中に伝わり、軍鶏ならず人間の木鶏会が出来たそうです。皆さんご存知の「致知」という雑誌は安岡先生の薫陶を受けたものですが、それを開いて見るとそれぞれの地域に「木鶏クラブ」があります。これは木鶏会から始まった今の姿です。

私たちが常にこのような心の持ち方を修行していかなければいけないと思いました。

## 2, 724回例会 2013. 4. 5(金)

4月に入り随分暖かくなりました。赤い色の彼岸桜が咲いていますが、ロータリーの花見例会は4月19日ですのでぜひ皆さんよろしくお願います。

さて、昨日は上諏訪中学校の入学式があり私も同窓会の立場で出席してまいりました。ピカピカの一年生が入ってきまして、前と後ろでは随分と身長の違いがあるなあと驚きました。近頃は子供たちに街で出会わなくなりましたので、大変新鮮に感じる事ができました。

春は出会いの季節です。それぞれの会社でも新入社員を迎えたところが多いと思います。新しい人との出会いでは、どういう人と付き合うか、選ぶかということが大事であります。先日朋友の道で、友はどうあるべきかというお話をしました。本日は安岡先生の顔相(がんそう)、顔色(がんしょく)についてお話しいたします。

古来「美人薄命」と言う言葉がありますが、だいたい美人で人格が良く、運命に恵まれているというのはまずいないそうです。「天は二物を与えず」で両面備わった人は少ないということです。では、どんな顔相が良いのかと言いますと、良いのはお多福である「女房にするにはお多福を狙え」と言っています。

美人と言うのはだいたい顔が卵型で、顎は先つぼみになっている。尖っているのは最もいけないそうです。顔をどのように見るかと言うと、上・中・下と三つに分けて見ているそうです。見方では上三分の一を見るのは少年期、中を見るのは中年期、晩年期は下で見るそうです。その意味でお多福は下が膨よかですから、顎の膨よかな人は晩年に豊かになることを表しているそうです。これは女性ばかりでなく男性にもあてはまり、良い典型は「吉田茂」で、顎が貧弱であれば髭を生やすのが良いと言っています。

顔色を見るのは難しいものですが、皆さんも女房が怒っているなと感じることがあると思います。初めて会った人の顔色を見るのは大変難しいものです。それを見分けることができる人相見はよっぽどの一人前だと言っています。

人間にはその能力があるそうで、西陣織の職人は2万とおりの色を見分け、香水を選別する職人は7千とおりの匂いを嗅ぎ分けるそうです。名医は病人を鼻で嗅ぎ分けるとも言われており、人間にはいろいろな能力がありますので、とことん訓練すればできるようになるそうです。大事なものは修養であるということです。



## 2, 725回例会 2013. 4. 12(金)

平林明副会長

先月、諏訪圏青年会議所が伊藤五六郎と阿呆丸の話を演劇で上映した話題を目に致しました。私がこの話を知ったのは青年会議所の時で、山田市長がこの話の紙芝居を作って色々ところで上演をしていた時だと思います。初めて聞いた時はあまりピンときませんでした。深く掘り下げていくと考えさせられる事が沢山ありました。皆さんもご存じだと思いますが、ここでどんな話が少しご披露します。

文政13年(1830年)有賀村に住む伊藤五六郎は13の村の名主の連署を持って天竜川の湾曲を無くすこと、釜口から築(やな)までの川幅を広げてほしいこと、橋は元の位置にしてほしいことなどを嘆願しました。これは諏訪湖が度々氾濫を起こしてしまうからでした。藩庁もこれに応じ様々な調査をした結果、浜中島を撤去することがまとまりました。この時、五六郎は撤去に要する人員を1万5911人と見積もり、工事の進め方、日程などを詳細に記した計画書を出しました。この内容はただ無駄に土を切り流して下流に流すことはせず、他に新しい土地を得ようという意図が読み取れます。

五六郎は22、3歳の若さにもかかわらず、藩よりこの大工事を請け負わされました。彼はこの工事のために、従来の泥舟の20倍もの大船を使いました。人々はこの大船を阿呆丸と呼んで嘲笑いました。大船に土を積んで諏訪湖を横切って湖南、有賀村に運び、その結果六町歩もの新田が出来たそうです。この新田が中曽根の一部にあたり五六郎田圃などと呼ばれています。工事は予定通り天保元年に完了し、多くの人々の尊敬を集めました。当時は漁舟以上の大きな船は禁制だったので、阿呆丸はすぐに取り壊されたようです。

この話は阿呆丸と嘲笑われても、自分の信念を曲げずやり遂げたことに私は感銘を受けます。職業奉仕を通じて社会奉仕に貢献していくことは、ロータリー精神にも似ていると思います。先日の丸茂先生のお話も正に職業奉仕と社会奉仕の原点のような気がしました。



## 2, 726回例会 2013. 4. 19(金)

本日は山崎晃ガバナー補佐の公式訪問例会、家族例会です。山崎補佐、ご家族の皆さん、ようこそお出で頂きました。また、親睦委員会と折井さんにより素晴らしい桜の設営を頂きありがとうございました。

本年は安曇野が歌詞の舞台とされる唱歌「早春賦」の発表から100年になり、いろいろなイベントが始まると聞きましたが、大変良い季節となりました。『春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえて 冷(すず)しかりけり』と道元禅師が読みましたが、日本人にとっては桜は特別な花です。

先程まで商工会議所の観桜会がありましたがお花見にはお酒は付き物です。論語に「孔子の食生活」を書いた部分があります。『食(めし)は精(しろき)を厭(きは)めず。膾(なます)は細きを厭(きは)めず。肉の敗(ふる)きは食わず。色の悪しきは食わず。臭(におい)の悪しきは食わず。にるを失へるは食わず。時ならざるは食わず、割め正しからざるは食わず、その醬(じょう)を得ざる時は食わず。肉は多しと雖(いえど)も食(しょく)気に勝たしめず』とあります。

これは皆様もご存じと思いますが、ご飯はあまり白くしてはいけない。膾はあまり細く切ってはいけない。肉の古いものは食べない。色の悪くなっているものは食べてはいけない。変な臭いのするものは食べない。季節の物を食べなければいけない。包丁の入れ方の悪いものは食べない。ワサビの無い時は魚の刺身は食べない。このように孔子は言っています。

そしてその次に『唯酒無量不及乱(唯(ただ)酒は量無く乱に及ばず)』お花見には酒は付き物ですが、酒は幾ら飲んでも良いが乱酔には及ばない(泥酔してはいけない)ということです。これをある漢学者が読み違えて奥さんに、「それ見よ、孔子様も『酒ははかるなかれ。及ばずんば乱す』と言っている」と言ったという笑い話があります。我々も気を付けなければいけないと思います。

さて、安岡先生も相当飲んだようではありますが、昔は三菱で出世をするのに一つの関門は酒の試練であったようです。岩崎弥太郎はよく社員を招きお酒を出したようです。そこで、その酒を飲めない者はよほど偉物(えらぶつ)でないと出世できなかったようです。ところが大いに酒が飲めても醜態を演ずるとこれまた落第だそうであります。やはり乱れるということが無いことが重要であったようです。

本日は乱れることなく、楽しく、充実した会にならんことを祈っております。



## 2, 727回例会 2013. 4. 26(金)

先週は家族例会でしたが、商工会議所の観桜会と重なり私も随分酔っており失礼しました。

さて、花も散り夏が近くなってきたという気がします。先日はボストンで事件があり驚きました。ボストン・マラソンのゴール付近で爆発があり、これはアルカイダが動き出したのかと心配しましたが、犯人はチェチェン人の兄弟でした。そのような事故が起きるとすぐテロだと頭をよぎるように、アメリカとイスラムの争いは根深いものがあると思います。そういう意味で宗教というものは大きな対立を生みます。

世界の三大宗教はキリスト教、イスラム教、仏教です。キリストの生まれは紀元前4年で信者は20億人います。イスラム教は2番目に多く13億人の信者がいます。570年頃モハメッドにより始まりました。仏教は3. 6億人で紀元前5～4世紀に仏陀が始めました。その他にもいろいろな宗教があり、一番古い宗教とされているのがユダヤ教です。これは紀元前20世紀頃始まっていますが、開祖はモーゼがイエスであったり、モハメッドがイエスであったりします。信者の数で3番目に多いのはヒンズー教で9億人おり、インド人の実に80%がヒンズー教徒です。

面白いのはキリスト教ではプロテスタントとカトリックがあり、イスラム教でもスンニ派とシーア派が2大派閥です。仏教では大乘仏教と小乗仏教があり、それぞれ宗教は2つに分かれているということです。私の工場があるベトナムは大乘仏教です。大乘仏教は世界の中で日本とベトナムくらいしかないそうで、狂信的ではなく、日本で言えば八百万神を包含するような穏健な精神を持っています。そういう意味でベトナムは安心して仕事ができると思った所以です。

安岡先生は仏教について「われわれの経験するこの世界は複雑極まりない因果の世界である。因といっても無限の因があり、それが縁によって結ばれて、無限の果を生んでいく。この因果の法を悟って仏道を成せんとするのが小乗仏教である。小乗とは直接的で実践的なものである。それに対して理論的、哲学的に発達したものが大乘仏教である。大乘も小乗に基づかなければ空理空論。また、大乘を含まない小乗も発達がない」と言っています。

日本の仏教の始まりは、飛鳥時代の聖徳太子からとされています。聖徳太子は主に「妙法蓮華経」の『法華経』、禅宗が重きを置いている『維摩経(ゆいまきょう)』、婦人を対象にした『勝鬘経(しょうまんきょう)』の三つの経典を重んじたそうです。



## 2, 728回例会 2013. 5. 10(金)

新聞を見ますとこのところ憲法96条の改正問題が色々論じられております。これは発議要件を衆参両院議員の3分の2以上の賛成から2分の1に下げるというもので、その裏には憲法第9条の改正を目指していることに間違いありません。その根底には尖閣への中国の執拗な実力行使や北朝鮮のミサイル問題がある。これに対し日本がきちんと国を守ることの必要性がベースにある。しかし今の憲法では色々な制限がある。中国や北朝鮮の怖い所は「政治の価値の方が、人命の価値を上回っていること」であり、価値観が我々と違うところです。そういう意味でもっと日本も政治的にしっかりしないとイケないという事のようにです。

さて、そのような政治問題に対して安岡先生は「日本が政治的に強くならなければならないが、これは政治家だけの問題ではない。」と言っています。日本国民の有識者、指導者の堅実な常識や良心、勇気を持った人々の「一燈照隅」が必要です。「一燈照隅」とは自分の存在がいかに小さくささやかであっても、一燈となり一隅を照らすことです。

しかしこの様に世の中が複雑になると、単なる知識ではダメで「見識」が必要です。見識を養うには生活、感情、情操、学問、思想、教養が必要であり、その教養を考えるのに必ずぶつかるのが東洋文化の本流である儒教、仏教、道教、神道などの諸経であると安岡先生は言っています。そんな訳で今回は三大宗教、仏教の「さわり」をやりました。皆様に配布した資料を見ますと「四諦」「十二因縁」とあります。これは原始仏教を理解するうえで大切な基本です。「諦」とは「真理」や「諦り＝悟り」という意味があります。また「諦らか＝あきらか」ともとらえられます。



## 2, 729回例会 2013. 5. 17(金)

夏も近づく八十八夜と言いますが、茶摘みは立春から八十八夜。本年は5月2日ですので今は正に新茶の季節であります。安岡先生は「茶飲み友達」について話しておりますので、本日はその話を勉強したいと思います。

そもそもお茶というのは、一面では哲学であると同時に科学でありまして、「茶飲み友達」というのは深い意味があり、深い味わいのある言葉であると先生は言っております。我々が今楽しんでいる茶道、薄茶とか濃茶というのは後に発達したもので、それ以前の茶は「薬茶」でありました。その茶を点てる、茶を出すというときに、まず注意するのは湯加減と良い茶を選ぶという事であります。

そのお茶を煎じるときには3つの段階があるそうです。まず、第1煎でお茶の中に含まれる糖分すなわち甘みを味わう。第2煎で茶の中に含まれるカフェインの苦みを味わう。最後の第3煎で茶の中の渋みを味わう。つまり、甘み、苦み、渋みと言うように味わい分けていくそうです。

しかし甘味や苦みと言っても、普通の人考えるような別々のものでは決してありません。そこで昔から茶人は「苦みの中に甘みがある。甘みのある苦みでなければ本当の苦みではない。」と言ってきたのですが、これは科学的分析で甘味カテキンが抽出されて証明されたようです。

本当の甘みは苦みの中にあり、本当の苦みは甘みを持ったものであります。よく「苦言を呈す」と言いますが、その苦言の中に実は本当の甘さがなければなりません。甘さがなければ真の苦言、苦みではないのです。そして、その苦言を喜ぶようになるのは相当人間が発達してからである。と先生は言っております。そして、その人間をもっと突き詰めていくと今度は渋くならないといけません。人間はいい年をして、いつまでも甘いだけではダメでありまして、苦みがわかり、さらに渋みが出てこないといけません。これが本当の茶道だ、と先生は言っております。

さらにこれを突き詰めると「無の味」になります。これを詳しく説いているのが老荘だそうです。この味の至れるものを「無味」と言ひまして、その無味とは「水」だそうです。水を「淡」と申しまして(これは火にかけて極めるという意味だそうです。)甘いとも、苦いとも、渋いとも何とも言えない味が無味、淡であります。論語の「君子の交わりは淡として水の如し」というのはそういう至れる交わりのことです。そこで、人間がお互いに人生の至れる味をしみじみと話し合う。というのが「茶飲み話」の本義であります。

夫婦が長い間一緒に苦勞をして、ようやく人生の醍醐味、世の中のことや人間の至極の話をしんみりと話し合えるのだそうです。お茶が美味しいのまずいという前に、お茶を味わえる人間になることが必要なようであります。



## 2, 730回例会 2013. 5. 24(金)

本日は大変すばらしいゴルフ日和に恵まれました。ゴルフをされない方は残念ですが、大いにゴルフを楽しみたいと思います。

さて、「ゴルフは健康に良い」と言われております。健康の三原則は皆さんよく御存じのとおり「栄養」「睡眠」「運動」です。これについて安岡先生は「心中常に喜神を含むこと」「心中絶えず感謝の念を含むこと」「常に陰徳を志すこと」と言っています。「心中常に喜神を含むこと」とは、どんなに苦しいことがあっても心のどこか奥のほうに喜びを持つという意味です。私の場合、今日は多分苦しいことが多いと思いますが、何とかそれを乗り越え、喜びに持っていかなければならないと思います。今日は怪我もなく、楽しい日になることを期待します。



## 2, 731回例会 2013. 5. 31(金)

昨年(2012年)の12月16日の選挙で自民党が大勝して12月26日に第二次安倍内閣がスタートし、「アベノミクス」と言われ始めましたがスタートしてまだ5か月しか経過していません。その中で急激な円安と株高があり、我々製造業の雰囲気は随分良くなったように感じます。しかし株はまだ乱高下しており予断を許さない状況だと思えます。株はこうなる。と分かっていたら売ったり買ったりするのですが、残念ながら分かりません。安岡先生はその「物わかり」について話していますので本日はそれを紹介します。

我々人間には「知」「情」というものがあります。先生は「どこまでも情の人でなければならない」と言っていますが、「知」や知性という方向に人間は流れやすく、経済が経世済民を離れてしまいます。これが残念な現実のようです。

我々は知るということ「わかる」と言い、「あれは物わりの良い男だ」とか「物分りが悪い」といいます。一方「知る」ことは、ものをわかつ事でもあると先生は言っています。赤ん坊の時はずべて全一ですが、だんだん知性が芽生えてくるに従いものを分けるようになります。お父さん、お母さん、兄、妹。自分についても、目、口、鼻とういふうに分かって認識するようになります。これが赤ん坊の成長です。そのことが「ものわかり」すなわち「事割」ということになります。

すなわち「知」には「ものをわかつ、ことわる」という働きがあるということです。草木でいうと、根から幹が伸び大枝、小枝と別れていきます。これが「ことわり、物わり」で知性はこれを認識する事です。それは「わかつ」ことに他なりません。

しかし、根から幹へそして枝葉へ分かれていくうちに次第に根源から遠ざかります。枝葉末節になり生命力が希薄になって真実ではなくなってきます。そして行き詰まります。草木でいうと散りやすくなり折れやすくなるという事です。そのままこの「ことわり」を進めてゆくと今度はだんだん「わからなく」なってゆきます。わかるものがわからなくなるのは不思議です。

それを救うものに「結ぶ」という働きがあります。それは分かれるのを結び、小枝から大枝に、そして幹、根に帰することです。わかるという働きと結ぶという働きが一緒になり始めて「生」「存在」「実在」というものができる。と安岡先生は言っております。分かるに従ってだんだん分からなくなるので病的になるようです。ヤマイダレの中に「知」を入れると「痴」になり、「バカ」という字になってしまいます。我々はあまり枝葉末節にならないように気を付けなければならないようです。



## 2, 732回例会 2013. 6. 7(金)

昨日はまた円が急騰しました。一時95. 9円になったようですが、どうも100円をきると我々製造業者の心理は随分変わりまして暗くなってしまいます。黒田日銀総裁やアベノミクスによって円安になってきたと思っていたわけですが、アメリカの様子によって円高になってしまうということです。先日の「物わかり」話ではありませんが、分かってくると、分からなくなる様な気がします。

しかし、考えてみるとこの大きな動きはアメリカの動きによって左右されているように思われます。これはGDP、国の経済力が大きいからその影響が大きくなる事のように思われます。そのGDPを見ますと2012年の統計では、アメリカは15. 6兆ドル、中国は8. 2兆ドル、日本は5. 9兆ドル、ドイツは3. 4兆ドルとなっており、アメリカは日本の3倍弱、中国はアメリカの半分強です。中国がアメリカに迫っているわけです。一面では経済戦争をしかけているという様子でして、情報の部分でも随分アメリカを攻撃しているようですし、昨日の新聞を見ても習近平さんが南アメリカを訪問して経済援助を申し出てお膝元をかく乱させているようです。

私たちはよく中国の事を知りませんが、安岡先生は「日本の文化は万世一系の天皇をいただいて、同一民族、同一言語。一度も外からの侵略がないが、中国は全く正反対で絶えず侵略、征服を受け、治乱興亡の歴史を持っている。中国の政治理想は『王道』である」と言っています。

書経(しょきょう)に「王道蕩々(とうとう)」と言っており、蕩には3つの意味が有るそうです。1つはスケールが大きい、2つにはよく練れている、3つにはとろける、くずれてだらしないという意味が有ります。

論語でも「君子は担蕩々」と言っていますが、蕩々は大まかで鷹揚(おうよう)でよく練達しているのですが、悪くすると、老かい、悪賢くなります。中国では「笑中刀あり」「腹中毒あり」そして、中の悪い人間に対してはかえって慇懃丁寧(いんぎんていちょう)というのは当たり前だそうです。

孫子にも「兵は偽りをもって立つ」「利をもって動き」「分合をもって変を為す者なり」と言っております。武田信玄も中国の孫子の兵法を随分勉強したようで「風林火山」は有名ですが「疾(はや)きこと風の如く、徐(しず)かなること木の如く、侵(おか)し掠(かす)めること火の如く、動かざること山の如し」本当は六句ありまして、「知り難きこと陰の如く、動くこと雷震の如し」で、これは現在でも戦争、政治の原理になっているそうです。



## 2, 733回例会 2013. 6. 14(金)

平林明副会長

梅雨に入ったと言いながらなかなか雨も降らずにジメジメとした日々が続いております。作物にも影響が出なければよいと心配しております。

前回4月12日の告知では伊藤五六郎と阿呆丸についてお話ししましたが、阿呆丸の大きさはどのくらいなのかをお話するのを忘れていました。かなり大きな船を作ったわけですが、当時は大きい船はご禁制でしたので、作業が終わった後はすぐに取り壊されたそうです。調べてみると長さが約15メートル、幅が約3メートルだそうです。私が青年会議所の理事長をしていた時、丁度20周年と重なりまして、阿呆丸を作って諏訪湖に浮かべ釜口水門まで行って帰って来ようということになりました。15メートルの木材は原村の小池さんに提供いただくことになり、メンバーと共に伐採し製材は下諏訪の金作さんをお願いしました。船の製造は諏訪に唯一おられた船大工の林さんにお手伝いいただきました。釘は船釘を使いますので、すべてが手作りでした。

そして、約2か月かかって完成することができました。ヨットハーバーでいざ進水式というとき、果たして浮くのかなあと心配しましたが幸い木は浮くもので巧くしたものだと思いました。ただ浮くのですが素人が作った物なので水が漏れてきます。水漏れは檜皮(ひわだ)を詰めて止めます。そんな作業をしながら無事釜口水門まで行って帰ってくることができました。

我々は当時の五六郎の思いに少しでも触れることが出来ればと思い、やって良かったなあと感じました。その後「阿呆丸の船大会」がガラスの里の前で始まりましたが、このような事がきっかけで事業が展開できたと嬉しく思っています。お時間があればガラスの里に伊藤五六郎の顕彰碑がありますのでお読みいただきたいと思います。お墓は有賀の江音寺の高台にあります。船を作った時の苦労話は機会がありましたらお話しします。

